

**【行頭記号の凡例】**

- ・ : 第2回総合計画審議会(2/14書面開催)の資料3の記述
- : // における委員意見
- : 信州これから会議や県民との意見交換における意見

**1 人口減少と少子高齢化の進行**

未来像	取組の方向性
<p><b>【望ましい未来】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・結婚・出産・子育ての希望がかなう</li> <li>●「結婚・出産・子育てを負担に感じない」社会</li> <li>・高齢者がいきいきと安心して暮らせる</li> <li>●ライフステージやニーズに応じた住み替えができ、より安心して豊かな生活が実現している</li> <li>・人口減少・少子高齢化の下でも地域や産業に活力がある</li> <li>●地域コミュニティが結び直され、平時から「顔の見える関係」が構築できている</li> <li>●多様な担い手が地域課題の解決に向けて協働できる仕組みが構築されている</li> <li>●自分の行動の交通手段が提供される</li> <li>○各地域に集落が点在するのではなく、中心となる集落に人が集まる</li> </ul>	<p><b>「特に分野横断的な取組が必要なもの」</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 出産・子育て・教育・医療・介護の一貫支援</li> <li>● 子ども・子育て、介護を社会全体で支える仕組みの構築</li> <li>● 「子育て・教育は信州で！」と思える社会・環境整備</li> <li>● 保育園、高齢者施設、図書館、体育館などが一体となった公共施設の整備</li> <li>○ 必要な機能を集約した“小さな拠点”を構築</li> <li>○ 今後の人口減少や集落の行く末を見据えて、公共施設の適正化・再配置</li> <li>○ 行政コストの可視化、生活インフラの集約、整備の順位付けを行いコンパクトシティを目指す</li> <li>● 少子化の流れを変える</li> <li>● 少子化対策の充実</li> </ul> <p><b>&lt;健康・医療・介護&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ライフステージ、ライフスタイルに応じた健康づくり</li> <li>・フレイル対策</li> <li>● フレイル対策、健康意識の向上、地域包括ケア体制の推進</li> <li>・医療提供体制（在宅医療、へき地医療など）</li> <li>・地域包括ケア体制</li> </ul> <p><b>&lt;教育&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 幼児の非認知的能力の向上</li> </ul> <p><b>&lt;地域&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・働き方改革による余剰時間を活用した地域活動</li> <li>● 新しい公共サービスの担い手として多様な人材が活躍できる働く機会を提供</li> <li>● 地域を支えるステークホルダーとともに地域づくりを担う形を共創</li> <li>● コミュニティ機能を補完するソフト・ハード対策</li> <li>○ つながる場の選択肢、新たなコミュニティを林立させていく</li> <li>● 地域力の強化</li> <li>● 伝統文化の活性化・継承</li> <li>● 地域の伝統・現代文化の社会的地位向上と発信強化</li> <li>○ 多岐に渡る地域活動の整理を行い最適化する</li> </ul> <p><b>&lt;社会基盤&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・持続可能で最適な地域公共交通ネットワークの構築</li> <li>● 住民の要望、利用率等地域にあった公共交通の在り方を検討</li> <li>● 休耕地、空き家の有効活用</li> </ul> <p><b>&lt;結婚・出産・子育て&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・結婚・出産・子育てを社会全体で応援</li> <li>● 出会いの場の創設</li> <li>● 家から通える距離で出産できる環境</li> </ul> <p><b>&lt;雇用&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・働き方改革（ワークライフバランス）</li> <li>● 熟練労働者の知識・技能を活かせる働き方の実現</li> <li>○ 女性の社会復帰のため、自分のスキルを上げる学び直しの場を提供</li> </ul> <p><b>&lt;産業&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・産業間の労働移動</li> <li>・若手人材の育成・確保</li> <li>・副業・兼業人材の活用</li> <li>・高齢者人材の活用</li> <li>● イノベーションを創発する若者／女性／海外人材の持つポテンシャルを発揮させるための環境整備による産業競争力の強化</li> <li>○ 意欲ある高齢者が活躍できる産業の創出、活躍の場の整備</li> <li>● 多様性を力にしたイノベーションの創出に高齢者も</li> <li>・中小企業の新陳代謝（事業承継・再編・創業など）</li> <li>● IT人材のみならず、優れた技能・技芸を尊重・継承する環境を実現</li> <li>● 農林業の修学体験、企業化による就業者増</li> <li>○ 女性に限らず多様な人材が関わる農業</li> <li>● 農林業のイメージアップ</li> <li>○ 農福連携（障がい者等が農業分野で就労・活躍）の更なる促進</li> </ul>
<p><b>【起こりうる未来】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生産年齢人口の減少</li> <li>・医療サービス、介護サービスの需要増</li> <li>・社会保障費の増加</li> <li>・産業の衰退</li> <li>・技術・技能・ノウハウの喪失</li> <li>・コミュニティ機能の低下</li> <li>・伝統文化の喪失</li> <li>・地域の生活必需サービスの維持困難</li> <li>・交通空白地域の増加</li> <li>・買い物弱者の増加</li> <li>・管理不全となる土地や道路、農地、森林、学校等の増加</li> </ul>	

## 2 気候変動対策や持続可能な社会への意識の高まり

未来像	取組の方向性
<p><b>【望ましい未来】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・脱炭素社会、持続可能な社会</li> <li>● 気候の爽やかさが感じられる故郷</li> <li>● みなでゼロカーボンを意識して行動する穏やかな社会</li> <li>● エネルギーの地産地消が実現している未来</li> <li>● エシカル経済が定着している未来</li> <li>● シェアリング・エコノミーの進展</li> <li>● グリーンでディーセントな産業・雇用の創出と持続的成長</li> <li>● 気候変動対応やDXの進展をはじめとする経済・社会の移行期に生じる負のインパクトを最小化している</li> <li>● 多様な主体が連携し食・エネルギーが、地産地消で賄われている</li> <li>● 生態系のバランスの回復</li> </ul>	<p>＜＜特に分野横断的な取組が必要なもの＞＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・徹底的な省エネルギー</li> <li>・再生可能エネルギーの普及拡大</li> <li>・地元で作られた電気を使う企業が増える仕組みづくり</li> <li>・水資源の保全・利活用</li> <li>● 脱プラスチック</li> <li>● 地産地消の促進</li> <li>● 食料・エネルギー自給</li> <li>● 里山・農林業による食料・エネルギー自給の改善</li> </ul> <p>&lt;教育&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 環境教育の推進</li> <li>● ゼロカーボン社会を実現のための"教育"</li> <li>● サステナビリティ・トランスフォーメーション(SX)のための高等教育機関</li> <li>● 皆が「環境大臣」になった環境活動</li> </ul>
<p><b>【起こりうる未来】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・甚大な人的・物的被害 → 3へ</li> <li>・観光、農林業などにおける被害の増大</li> <li>・ゼロカーボンへの対応の遅れによる産業の衰退</li> </ul>	<p>&lt;社会基盤&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● バイオマス、小水力発電の推進</li> <li>○ バイオマス発電や地熱発電、水力発電等地域にとって一番適切な発電方法を普及</li> <li>・森林整備等によるCO2吸収量の増加</li> <li>● 森林の間伐</li> <li>・住宅・建築物のゼロエネルギー化</li> <li>○ 蓄電の仕組み</li> <li>○ 公共施設の更新に合わせて徹底した断熱や創エネに対応</li> <li>○ 災害時に地域で使える電力供給体制の構築</li> </ul> <p>&lt;産業&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・サーキュラー・エコノミーへの移行</li> <li>○ 地域あるいは周辺で調達の仕組み（スモールサーキュラー）を作る</li> <li>● シェアリング・エコノミーによる生産・所有・廃棄の減少</li> <li>● ゼロカーボンに向けた産業構造の転換</li> <li>● 食品業、林業など脱炭素先進地域として優位性を確立</li> <li>○ 「環境に優しい」農業の更なるアピール</li> <li>● 静脈物流の整備</li> </ul>

## 3 自然災害や感染症などの脅威

未来像	取組の方向性
<p><b>【望ましい未来】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・過去の経験から学び、災害や感染症などの危機の際にいのちが守られる</li> <li>● 個々に自身の避難行動がとれる</li> <li>● 人々の生活、健康、医療、環境、福祉、農業、などの領域の生命にかかわる産業が発展している</li> </ul>	<p>＜＜特に分野横断的な取組が必要なもの＞＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 再エネとリンクさせた防災対策</li> </ul> <p>&lt;公正・包摂&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 災害時の在留外国人保護</li> </ul> <p>&lt;健康・医療・介護&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・次のパンデミックへの備え</li> <li>・医療提供体制の強化（医療機関の役割分担、医療従事者の確保など）</li> </ul>
<p><b>【起こりうる未来】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・甚大な人的・物的被害</li> <li>・インフラの機能・性能の低下</li> <li>・パンデミックによる社会経済システムの機能不全</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 医療インフラの充実</li> <li>● 医療体制は松本モデルを全県展開</li> <li>● リダンダンシー(冗長性)を持たせた医療体制</li> <li>● 災害時の保養所・旅館・民宿・ホテルの借上げ、個別スペースの設置</li> </ul> <p>&lt;教育&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 児童を含めた住民の防災教育の推進</li> </ul> <p>&lt;社会基盤&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・大規模災害への備え、県土の強靱化</li> <li>● 県土の強靱化・耐震化推進</li> <li>・自然災害対策（ソフトの充実、デジタル技術の活用）</li> <li>● 思い切った投資</li> <li>● リダンダンシー(冗長性)を持たせた災害防止対策</li> <li>・インフラの継続的なメンテナンス</li> <li>● 応急・復旧対策の充実</li> <li>● 全員がマイタイムラインの作成</li> <li>● JR、NEXCO、電力会社等との逃げ遅れゼロに関する連携・情報共有</li> </ul>

#### 4 社会に存在する様々な格差

未来像	取組の方向性
<p><b>【望ましい未来】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・年齢、性別・ジェンダー、障がい、生まれ、経済状態などに関わらず、誰にでも居場所と出番がある</li> <li>・県民一人ひとりの多様性やちがいを理解し、支え合いながら、個性や能力を活かしている</li> <li>・誰もが、それぞれに応じた機会やチャンスを持てる</li> <li>●地域共生社会が実現している</li> <li>○複数の所属や居場所を持てる社会</li> <li>●子どもから高齢者まで一人ひとりが大切にされる社会</li> <li>●女性がいきいきと暮らせるジェンダーギャップの無い未来</li> <li>●男女共同参画が進んだ社会</li> <li>●若者が自らの可能性や個性を伸ばし地域社会で活躍している</li> <li>●最も遠くに取り残されている方々に、第一に支援・サービスが行き届く社会が構築されている</li> <li>●県民が相互に支え合い、自己実現に挑戦できるセーフティネットが組み込まれている活力あふれる社会</li> <li>●一人ひとりの持つ力が十分に発揮していくことができる機会をつくり、社会参加につないでいる</li> <li>○ダイバーシティの考え方として、女性、障がい者など、様々な形で参画してもらう</li> <li>●誰もが公正で多様な働き方を通じて社会に参加でき、社会的・経済的に自立している</li> <li>●安定し継続的な雇用関係が再構築された社会</li> <li>●誰もが、差別されることなく、その持てる能力を最大限に発揮でき多様性を受け入れる職場・社会環境となっている</li> <li>●ディーセントで持続可能な仕事への投資がされている</li> </ul>	<p><b>＜＜特に分野横断的な取組が必要なもの＞＞</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・多様な生き方・働き方を支えるセーフティネットの充実</li> <li>●アウトリーチ型支援体制の構築</li> <li>●共生社会の構築に向けた包括的支援体制強化</li> <li>・誰もが活躍できる場の創出（高齢者、障がい者など）</li> </ul> <p><b>＜公正・包摂＞</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●性差別の禁止、ジェンダー・バイアスの払拭</li> <li>●障害やLGBTQ等人権意識の醸成</li> <li>・国際感覚を持ったグローバル人材の育成</li> <li>●専門家以外が便利に使える技術の優先開発</li> </ul> <p><b>＜教育＞</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・リカレント教育、リスキリングの充実</li> <li>●奨学金制度の拡充</li> <li>●教育費無償化による教育機会の保障</li> <li>○学びの多様性と公平性を確保</li> </ul> <p><b>＜雇用＞</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・働き方改革（ダイバーシティ、ワークライフバランス）</li> <li>●最低賃金の引上げにより所得の二極分化を是正</li> </ul> <p><b>＜産業＞</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・中小企業・小規模事業者のDX</li> </ul>
<p><b>【起こりうる未来】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・格差の拡大、社会の分断の深刻化</li> <li>・貧困の連鎖</li> <li>・個人が生きづらい社会や地域、組織からの人材流出（特に、20代女性の社会減）</li> <li>・中小企業・小規模事業者の雇用、技術・技能・ノウハウの喪失</li> </ul>	

## 5 新技術・デジタル化の加速

未来像	取組の方向性
<p><b>【望ましい未来】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・人とのつながりを大切にしながら、新技術やデジタルを活用して、誰もが質の高いサービスを楽しんでいる</li> <li>●技術革新により生活の質(QOL)が高まり豊かな生活が実現している</li> <li>●弱者ほどDXの恩恵を多く享受できる</li> <li>●技術革新の進展による果実を、広く県民や企業が活用できている</li> <li>●国と地方の垣根を越えた行政のワンストップサービスが進められている</li> <li>・新技術やデジタル活用により県内産業の競争力が向上している</li> <li>●付加価値の高い産業が存在する活力ある未来</li> <li>・いつでも、どこでも、誰でも学び直しができ、技術革新に伴う雇用環境の変化に適応した能力を身につけている</li> <li>●身近に操作を教わる人材がいる</li> <li>●気候変動対応やDXの進展をはじめとする経済・社会の移行期に生じる負のインパクトを最小化している</li> </ul>	<p>＜＜特に分野横断的な取組が必要なもの＞＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・あらゆる分野でのDX（デジタル化ではなくトランスフォーム）</li> <li>・デジタルデバイドの解消に向けた情報弱者支援（高齢者、障がい者、貧困世帯など）</li> <li>●デジタル・デバイドの解消</li> <li>●専門家以外が便利に使える技術の優先開発</li> <li>●ネットで容易に学べる仕組み</li> <li>・人的資本への投資</li> <li>・デジタル活用と並行したリアルな人と人とのつながりの重視（教育、医療・介護、福祉など）</li> </ul> <p>＜教育＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・リカレント教育、リスキリングの充実</li> <li>●リカレント教育</li> <li>●情報デジタル人材の育成</li> <li>●高等教育機関における「情報教育の支援」の推進</li> <li>・個別最適な学びの実現</li> <li>○DX人材の輩出等について、大学、高専、高校など教育機関がコミット</li> </ul> <p>＜地域＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・条件不利地域の活性化</li> <li>○次世代モビリティの集落での共有</li> <li>●地域や自治体の大小による恩恵格差に配慮</li> </ul> <p>＜社会基盤＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●自動運転・EV化の公共交通、物流インフラ対応</li> </ul> <p>＜雇用＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・産業間・職種間の労働移動</li> <li>●技術革新を雇用の創出につなげる</li> </ul> <p>＜産業＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●メディカル、航空宇宙、ランドスケープ等の分野のリーダー県を目指す(予算措置も)</li> <li>・様々な産業におけるイノベーションの創出、新たな市場への参入</li> <li>●自治体や企業の「情報デジタル力」の強化</li> <li>●オンライン商談会・情報発信の充実</li> <li>・中小企業・小規模事業者のDX</li> <li>○AI、IoT、ブロックチェーン、ビッグデータのデータサイエンスなど自社だけで完結できない専門性は、共創の関係づくり</li> </ul>
<p><b>【起こりうる未来】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・暮らし、産業、行政などにおけるデジタル化の遅れ</li> <li>・情報格差の拡大</li> <li>・子どもの社会性や対人関係能力の低下</li> <li>・DXの対応に乗り遅れた企業の機会損失</li> <li>・IT人材不足の拡大</li> <li>・AIやデジタル化による雇用の一部代替</li> </ul>	

## 6 海外との関係の変化

未来像	取組の方向性
<p><b>【望ましい未来】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・当たり前の世界とつながり、県内でグローバルな社会経済活動が営まれている</li> <li>●多文化共生社会の実現により世界から人材を惹きつけている</li> <li>●言葉や文化の違いを超えて信頼関係が結ばれる</li> <li>●多くの外国人が定住し、訪れる未来</li> <li>・工業製品、農産物・物産、観光地が世界から選ばれている</li> </ul>	<p>＜＜特に分野横断的な取組が必要なもの＞＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●外国人受入体制の充実</li> </ul> <p>＜教育＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・国際感覚を持ったグローバル人材の育成</li> <li>●幼児教育に始まる国際人材の育成</li> </ul> <p>＜社会基盤＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●松本空港の海外航路を拡充</li> </ul> <p>＜交流・連携＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・観光は事業者単位ではなく、歴史・文化・暮らし等をストーリーに、地域でブランディング</li> <li>●観光サービス分野においては、広域DMOによる、そのエリアの歴史・文化に根差した長野県ならではの観光商品を創造し、観光県としての地位を確立</li> </ul>
<p><b>【起こりうる未来】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・異文化理解、国際感覚の低下</li> <li>・多文化共生社会への意識の低下</li> <li>・インバウンド客が他の国や地域へ流出</li> <li>・人権、環境問題に適應できない企業のサプライチェーンからの除外</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●姉妹都市などと定期的な児童・生徒の交流機会の創出</li> </ul> <p>＜産業＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・インバウンド復活を見据えた他国へのアプローチ（オンライン商談会・情報発信など）</li> <li>○サプライチェーンを含めた産業の流れ・仕組みの見直し</li> <li>○県内でコンセプトを実証し、スケールアップしてグローバル展開</li> <li>○食糧安保に繋がる資源循環型農業の推進</li> </ul>

## 7 東京一極集中から地方分散への動き

未来像	取組の方向性
<p><b>【望ましい未来】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・多様な魅力で人をひきつけ、本県に暮らす全ての人が希望するライフスタイルを実現している</li> <li>・本県と多様な関わりを持つ人が全国にいて、県内で地域の担い手として活躍している</li> <li>●魅力あふれる地域づくりにより、本県への人の誘導が実現する</li> <li>●東京一極集中からの地方分散</li> <li>・本県をフィールドとして選択する企業が増加している</li> </ul>	<p>＜＜特に分野横断的な取組が必要なもの＞＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・豊かさ、しあわせの発信</li> <li>●働きやすさや暮らしやすさ、地域の魅力を効果的に発信</li> <li>●“豊かなくらしNo.1”の取組と発信</li> <li>●「子育て・教育は信州で！」と思える社会・環境整備</li> <li>●人、企業をひきつける条件、整備と仕組みの具体化</li> <li>・生活に必要な不可欠な医療、教育、交通などの基盤づくり</li> </ul> <p>＜教育＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・多様な教育の充実</li> <li>●産学官の連携強化やベンチャーの育成や大企業の研究施設誘致</li> </ul> <p>＜地域＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・豊かな自然などの地域の特色をいかした、人や企業をひきつける魅力ある地域づくり（信州回帰プロジェクト）</li> <li>・賑わいのあるまちづくり（ウォークアブルなまちづくり、グリーンインフラの導入）</li> </ul> <p>＜社会基盤＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・道路ネットワークの充実（コンパクトな拠点とネットワークの構築）</li> </ul> <p>＜交流・連携＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●地方移住、二地域居住の推進</li> <li>○関係人口は、量ではなく質を重視</li> <li>○「好きな場所のひとつ」として選んでくれる人を増やす</li> </ul>
<p><b>【起こりうる未来】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「地方回帰」の流れを逸し、大都市圏のひと・企業から選ばれない</li> <li>・東京圏への人口流出が継続</li> <li>○県外に進学した若者にとって魅力的な職場が県内にない</li> <li>・スーパー・メガリージョン形成後の効果が限定的</li> </ul>	

## 8 ライフスタイルや価値観の多様化

未来像	取組の方向性
<p><b>【望ましい未来】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・多様性が認められる社会の中で自分らしさを追求できる</li> <li>○自身の暮らし、人生を、自らの意志で選んでいける社会</li> <li>・柔軟性に富み、変化を恐れない地域コミュニティ</li> <li>●多様な働き方・生き方が選択できる社会が構築されている</li> <li>●個人事業主が、自分のライフスタイルに沿った生き方ができる社会</li> <li>●文化芸術・スポーツとの身近で日常的なふれあい</li> <li>●文化・スポーツが暮らしに根付いている</li> </ul>	<p>＜＜特に分野横断的な取組が必要なもの＞＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・変化の時代を生き抜くための人間力を養う（子どもの非認知的能力、大人の学び）</li> <li>●不確実な未来に対応できる人間力</li> <li>○ライフステージの境界線を取り払う</li> </ul> <p>＜教育＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○子どもたちの多様性を重視した「個別最適な学び・協働的な学び」へ転換</li> <li>○地域の接点から学校教育の現場も変化に対応</li> </ul> <p>＜雇用＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・働き方改革（多様で柔軟な働き方）</li> <li>●自分のやりたい仕事の起業・創出</li> </ul>
<p><b>【起こりうる未来】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・人生100年時代の働き方、暮らし方の変化に対応できる人とできない人、多様な生き方を受け入れる地域とそうでない地域の二極化</li> </ul>	<p>＜産業＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・多様性を力にしたイノベーションの創出（女性、若者、ベンチャー）</li> <li>○消費者の量的指向から質的指向への変化に対応する商品・サービスの提供</li> <li>○地域資源を活用して生産過程の質を付加価値に</li> </ul>